

「いま・ここ」に集中し、

「点から線」へ素敵な人生

を歩みましょう

二月という月は、ある人にとつては受験が、またある人にとつては就職という、進路を決する挑戦の月でもあります。いわば人生の大きな分岐を決する月ともいえるでしょう。天地宇宙の理に『因果応報（いんがおうほう）』が厳然と漂っています。これまで、どの様な考え方で、どれだけ努力勉強を重ねてきたか？そんな一つの答えが出ます。やった事が結果としてついでにきます。そこには寸分の狂いもありません。頼りになるのは、他でもない今まで頑張り、努力した過去の自分自身でしかありません。後悔って、やってしまったことにするもんじゃなくて、やらなかったことにするものだと思います。どうか、後悔の無きように全力投球で臨んで頂きたいと願っています。良くも悪くも、春になれば、みんなが納得した形で笑顔になれますように…。

冬を耐え抜いた蕾が花咲き、草が萌え出（いで）て、或いは月が満ちてくる、潮が満ちてくる、という大自然の営みや恵み。北風が吹きすさび、雪が重く降り積もった下に、草の萌え出る芽が必ず息づいています。寒い冬を耐え忍んで、それを克服した時に、必ず春は訪れます。それが天地自然の理というものです。

先月は全国的に寒波が襲い、雪の降り積もる寒い日々を過ごしました。無邪気な子供達は、降りしきる雪と戯れ、そんな姿に大自然の営みと、子供達の無垢な心に感動すら覚えました。大人と小人（子供）は同じ人間なのに、受け止め方が全然違います。大人と小人ではおかれている立場も違えば、人生に対する考え方の深さも違うので、当然受け止め方が変わります。ただ大人といえども、小人以上に大自然に畏敬の念を持ち、感謝感動する方もおられます。どの様な考え方をもって人生を歩もうと自由なのですが、その考え方によって人生の様相が全く異なったものになってしまいます。「素晴らしい人生を送る」には、それにふさわしい考え方があり、行動があるのではないのでしょうか？

歳を重ね、大人として成長すればするほど、人生の経験が豊富に蓄積していきます。そんな過去の経験値があればこそ、未来を予測し、よりよく行動する事ができるようになります。一方、小人は経験値が少ないので、良くも悪くも無邪気に、「いま」・「ここ」に無我夢中で集中する事ができている様に見えます。小人の「いま」・「ここ」という生き方は、人生を生きる上で最も大切な事の一つだろうと思います。

そこで、経験値の豊富な大人が、ここで言う小人から謙虚に学ばなければいけない事があります。過去も未来も手放して、「いま」・「ここ」に全力投球することです。時間軸を「いま」に合わせて、地点を「ここ」に合わせていく事です。人生の瞬間、瞬間という「点」が組み合わさって、人生の「線」になっていきます。つまり「いま」・「ここ」にしか、人生は無いという事です。大人になれば賢くなり、明日のことや未来のことを考えて、なかなか行動に移せなくなってくるものではないでしょうか？本当は心で感じた事や、頭で分かっている事を行動にする事が大切だったりする事もあるのでしょうか…。

後悔先に立たず。暖かい春の訪れを前に、いま一度、自らの考えや行動の一つ一つを「いま」・「ここ」に集中し、自分の分を知り、「いま」・「ここ」でしか出来ない事、やらなければいけない事を行い、素敵な一瞬一瞬の「点」が、素敵な人生の「線」になることを改めて自覚し、自らの指針を見直す契機にしたいものです。

一生懸命だと、知恵が出る。中途半端だと、愚痴が出る。いい加減だと言い訳が出る（武田信玄）。また、成功の反対は失敗ではなく、やらないうことだ（佐々木則夫なでしこジャパン監督）という言葉があります。本当にそうだと思います。一所（生）懸命に考へ行う人には、天から進むべき為の知恵が与えられるのだと思います。またやらないこと事態が失敗なのだと思います。念ずれば花開く（森信三）のです。念ずるというのは心で思うことです。心で思った事が、その人の口をついて言葉になります。心で思った事が、その人の行動に現れるのです。だから心を磨かなければならないのです。つまり、私達の心のありようで、人生の歩き

方や、行き先が決まるのは必然という事になりましょう。

「あたりまえ」を「ありがとう」と言うのが感謝。

「だから、なに？」を「おめでとう」と言うのが賞讃。

「もう、ダメだ」を「これからだ」と言うのが希望。

「なりたくない」を「なつてやる」と言うのが決意。

「もういいや」を「まだ待とう」というのが忍耐。

「疲れた」を「頑張った」と言うのが努力。

心の置き所や、考え方一つで、一つの出来事に対しての受け止め方が全然違ってきます。心で思った事が、その人の口を吐いて言葉になるので、言葉一つで、ネガティブストレス(マイナス思考⇨後ろ向き)から、ポジティブストレス(プラス思考⇨前向き)に一瞬で転換してしまえます。

誰しも色々な苦しみや、辛い出来事などに直面する時があります。その時にこそ、正しいものの見方、考え方を持ち得る人、あるいは強い意志、信仰心を持っている人は、必ず

どんな苦しみをも乗り越える事が出来るはず。なぜなら、その人は失敗を失敗と捉えないからです。成功の反対は失敗ではなく、やらない事だからです。

失敗も成功も、行ってこそ得られるご褒美だと思います。成功すれば嬉しいし、失敗すれば苦しく悲しいものです。ただ、苦しみを経験するから、幸せの有り難みが分かるのです。挫折というのは、人生を幸せに歩むためのプロセスとも言えるでしょう。

何でもそうですが、続ける事は、常に第一歩から始まります。そして、その一歩一歩の「点」を、続けてこそ「線」という人生の道になるのです。

継続が最も難しい事の一つに、子育てがあるとします。それでは今号の最後に、面白くて深い子育て十一ヶ条をご紹介します。締め括らせて頂きます。

『アメリカインディアン』の教え

子供たちは「どうして生きかたを学びます (Children Learn What They Live) ○批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします (If a child lives with criticism, He learns to condemn) ○敵意にみちた中で育った子はだれとも戦います (If a child lives with

hostility, He learns to fight)

○ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります (If a child lives with ridicule, He learns to be shy)

○ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります (If a child lives with shame, He learns to feel guilty)

Learnes to feel guilty)

○心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります (If a child lives with tolerance, He learns to be patient)

○はげましを受けて育った子は自信を持ちます (If a child lives with encouragement, He learns confidence)

○ほめられる中で育った子はいつも感謝するのを知ります (If a child lives with praise, He learns to appreciate)

○公明正大な中で育った子は正義心を持ちます (If a child lives with fairness, He learns justice)

○思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます (If a child lives with security, He learns to have faith)

○人に認めてもらえぬ中で育った子は自分を大事にします (If a child lives with approval, He learns to like

himself)

○仲間の愛の中で育った子は世界に愛をみつけます (If a child lives with acceptance and friendship, He learns to find love in the world)

なるほど…領ける名文ですよね。天地自然の理や、人間の営みには、万古不変の真理が流れている事を自覚し、「いま・ここ」に集中し、

「点から線」になる様に、努力精進継続していききたいものです。

合掌 副住職 谷川寛敬

